



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 7 R6.07.01

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

異次元の走りを裏打ちするもの —田中選手のコンピテンシーに学ぶ—

6月29日、第108回日本陸上選手権（パリオリンピック代表選手権）で田中希実選手が後続を大きく引き離し女子5000メートルで優勝しました。

すでにこの種目では参加標準を切っていて、パリも内定している中での出場でした。本来なら棄権して体力温存、他の種目に注力という選択肢もあったでしょう。それに関してインタビューに次のように答えていました。

「今しかできないことをする。オリンピックは頂点ではない。パリオリンピックのために種目を絞ったとか、日本選手権を諦めたとか、言い訳をしたくない。もしオリンピックが決まっていなかった時には迷わず日本選手権に挑戦していたはず。オリンピックがあるからという考えではなくて自分が日本選手権で何がしたいかを意識した時に、今しかできないことはこれかなと思った」

アスリートの試合後のインタビューには学ぶところがたくさんあります。以前はレース



日本陸上連盟公式サイトより

やゲームの直後にこうしたインタビューはあまりなかったように思います。最近ファンサービスの一環なのか大相撲などでも力士が息を切らせながら誠実に語ってくれています。

ところで『古人の跡を求めず、古人の求めしところを求めよ』という言葉があります。松尾芭蕉が彦根藩士の森川許六の帰藩に際し、餞別として与えた送別文中の言葉です。

先人の過去の事象や形だけを真似るのではなく、それが当時の状況下で何を意味していたのかを十分考えることが大切であるという意味です。

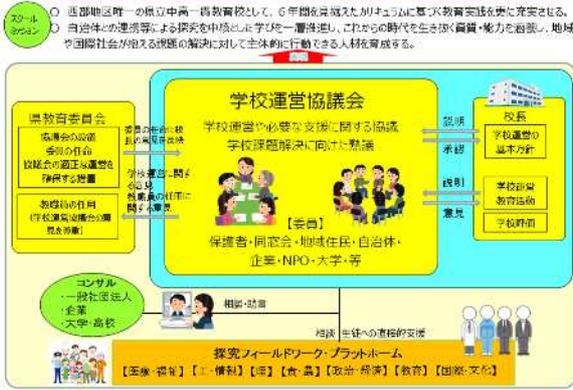
この言葉を思い出したのは、まさに田中希実選手の異次元のパフォーマンスに驚き憧れ、自分もそこを目標にしようと思うこと（古人の跡を求めること）よりも、なぜ田中選手がそれをしたのか（古人の求めしところ）に寄り添う、それをジブンゴトとして受け止めることにこそ、やる気スイッチがあると感じたからです。田中選手の競技にかける哲学が伺えて凄い人だなと改めて感じ入りました。

昨今、学力は従来のパフォーマンス（タイムや点数など結果として現れた部分）だけを指すのではなく、コンピテンシー（そこに向かおうとする意欲や態度など）を含めて捉えられるようになりました。総合型入試で合格した生徒は大学で一般入試で入学した生徒よりも伸び代が大きいのはコンピテンシーが大きいからだといいます。

「今しかできないことをする」。この言葉に潜む意欲に私たちも大いに学びたいものです。

コミュニティ・スクール始動 —探究を習慣にする学校づくりに向けて—

今年度から武雄高校は探究活動を一層推進するためにコミュニティ・スクールとなりました。コミュニティ・スクールとは地域と学校とが一体となって、生徒の皆さんが生き生きと輝けるような学校づくりを進める基盤となる組織です。



コミュニティ・スクールの中核をなす会議体を学校運営協議会といいます。ここで学校づくりの基本方針をしっかりと話し合います。その方針の骨子に「探究」があります。

これまで本校は、武雄市との協働によるまちづくり参画事業に継続的に取り組み、今年で8年目を迎えました。そこを足掛かりとして、生徒全員が主体性・自主性を育む

令和6年度 佐賀県立武雄高等学校・武雄青陵中学校 学校運営協議会 委員

上でも地域社会をフィールドにした課題解決学習に取り組むことが、学ぶ意欲・生きる力を高めてくれると思っています。そこで今年には総合的な探究の時間もリニューアルし、フィールドワークの時間を充実させました。

その委員の方は右のとおりです。また皆さんに直接かわる部分で言えば、上の図の下に探究フィールドワーク・プラットフォームがありますが、それぞれの分野に皆さんの探究活動を伴走していただけるよう地域やOB等の方々に協力をお願いしているところです。皆さんの学校生活が充実したものになるよう頑張っていきます。

氏名(ふりがな)	所属	役職
1 岡本忠裕(おかもとただひろ)	高峰寺・あさひこども園	住職・園長
2 今村正治(いまむらまさはる)	佐賀女子短期大学	学長
3 早川 加恵(はやかわかえ)	長崎大学・九州工業大学	キャリアコンサルタント
4 甲斐田晴子(かいだ はるこ)	いきいき唐津株式会社	代表取締役
5 野田真司(のだ しんじ)	株式会社佐賀広告センター	営業部・次長
6 多久島春喜(たくしま はるき)	武雄高校PTA	副会長
7 奥 亜紀子(おく あきこ)	武雄市男女参画・市民協働課	課長
8 田嶋正剛(たきま まさたか)	武雄市立武雄小学校	校長
9 下村昌弘(しもむら まさひろ)	佐賀県立武雄高等学校	校長
10 古賀浩和(こが ひろかず)	佐賀県立武雄青陵中学校	校長

同窓の皆様もご活躍！ ー福岡のライブハウスからCDの提供ー

6月23日、福岡で武陵会の支部会が行われた際、ご出席の宮原智津子様(高27回卒)からCDをご寄贈いただきました。



宮原氏は福岡市でライブハウスを経営されており、ご自身もピアノの弾き語りをなさっており、21年「トワレ・ナイト」というカバーアルバムをリリースされたそうです。

今回、「ありがとう」というCDも併せて2枚をいただきました。ピアノの音色を基調とした優しい調べです。学校生活のどこかの場面でBGMとして流したいと思います。乞うご期待！



【当面の主な予定(7月前半)】
 3日(水) クラスマッチ
 4日(木) 探究
 5日(金) 性教育講演会
 6日(土) 土セミ
 8日(月) 月セミ(2年)
 12日(金) 三者面談 18日まで

(閑人閑話)大阪であった武陵会の関西支部会に出席した。さすが京都だけあってJR西日本の元副社長さんなど年配の同窓の方々の経歴に改めて驚いた。▼同じテンプルだった関西佐賀県人会の会長さんとの話に花が咲いた。「今の学校に期待することはなんてすか」の問いに「好奇心とビジョン」と即答。「真面目にコツコツもいいけど、ワクワクと先見の明がこれからはもっと必要だ」と半導体の黎明期に関わった経験を語っていた。▼「重ねて」では好奇心やビジョンを持つためにはどうしたらいいですか」と尋ねると「周りの人を皆、自分の師と思つて話をよく聴くこと。その話で足りないところ、興味が湧いたことは本を読む。それともう一つは映画。映画は人生を考えるのもってこいだ」。▼「全て我が師と言つても大半はほとんどが反面教師だがね」と快活にお笑いになったが、矍鑠とした雰囲気がとても素敵だった。自分もああいうふうな歳を重ねられたらなあと思いつつ帰路に。▼それにしてもこの支部会も若い人の出席は少ない。東京では5名の現役大学生と大学院生が参加してくれた。▼生徒の皆さんは、来年以降、ぜひ、進学した先で行われる同窓会の案内が来たら足を運んでみてほしい。きっと人生の師がそこにはいらっしやる。ついでに言うとう学生時代は多分無料で飲み食いさせてもらえます！多分。(昌)